



実践講座…したたかな農業を目指す経営管理

入るを計り出を制す！

第三章

投資其ノ二 愛車への投資、トラクターの時給はいくらか？

齊藤義崇

1973年北海道生まれ。栗山町在住。昨年、普及指導員を退職し、実家の農業を2014年から営む。経営は和牛繁殖、施設園芸が主体。普及指導員時代は、主に水稲と農業経営を担当し、農業経営の支援に尽力した。主に農業法人の設立、経営試算ソフト「Hokkaido_Naviシステム」の開発、乾田直播の推進、水田輪作体系の確立などに携わる。

馬と馬鋤（まんが）による代かき。

馬を思い通りに動かせるかが経営者の腕の見せ所で、ときおり器用に子供たちが、泥んこになりながら馬の先導役を買って出たりする。写真でしか目にすることがない光景だが、相当きつい農作業に思えてならない。「体と心を鍛えるにも田耕が一番。田んぼの恵みに感謝の気持ちでいっぱいになる」は、昔の優れた経営者の言だ。自分はトラクター耕の時代に生まれて、本当によかったと思う。イギリスの産業革命と、先進国日本に生んでくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいになる。

「猫の目農政」と批判を浴びる農水省ではあるが、昨今の政策で思いの外、機械への投資が進めやすくなった。トラクターでは、高馬力、高性能のものを更新できるようになったのも、そのおかげであろう。各トラクターメーカーも昨年の売り上げは好調で、さらなる性能の進歩も誰のためか急速に進む時代である。

さて、今回はトラクターを愛して止まない経営者の皆さまへ、トラクター新調の心得と話題のGPSガイダンス導入の考え方を紹介していきたい。トラクターの投資の経済性を見込むとき、稼働面積で見込む場合と、稼働時間で見込む場合がある。ここでは稼働時間でトラクターの投資分析を行なっていく。

投資分析は回収額の算出から

はじめに、前回の農地取得のときと同様に、資本回収法について紹介する。図1は、800万円のトラクターを負債により購入したときの回収の目安を試算したものである。現在より試算金額以上の利益が増加しないと、回収が困難であることを示している。過剰投資を防ぐためにも、投資額の返済を滞らせないためにも、利益増加の見込額を算出することは原則である。

トラクターの購入を検討するときには、既存のものよりも高馬力への

更新が多く、装着する作業機の作業幅や規格のグレードアップも必要となる。投資分析は将来に対する分析であり、そこには時間の経過という考えが伴う。大まかな年当たりの回収金額をキッチリ算出しておくことが求められる。

トラクターは耐用年数や減価償却費、面積で捉えても、何とも高額であるにも関わらず、金額の負担の大きさを実感しにくい。例えば、1200万円のトラクターを年間のべ100ha、15年利用すると考えたとして加算しても、年間100000円/10aとなり、各作物で利益の違いはあれど、なんとなく安いと考えてしまう。

トラクターは頼りになるパートナー

そこで、トラクターに装備されているアワーマーター（時間計）を利用して、稼働時間で経済性を考えてみよう。

その前に少しだけアワーマーター

について解説する。基準は国産、外車、各メーカーで若干の差がある。PTOの回転定格の1時間をもつて1時間と表示するもの、一定の回転数以上の1時間をもつて1時間と表示するものなどがある。いずれも、アワーマーターがトラクターの稼働時間を記録する測定器であることは間違いない。

このアワーマーターから投資分析の検証ができることに注目し、トラクターの時給を計算してみたのが図2である。800万円のトラクターを15年使用する場合、維持費などの諸経費を購入価格の2%とすると、年間69万円がトラクターの費用負担となる。これを稼働時間で割り返したものが一番下の実線のグラフである。800万円のトラクターを10年、1200万円のトラクターを15年使用する場合もそれぞれグラフに示した。いずれも、経営者の年間所得を600万円、のべ労働時間を2000時間としたときの経営者自身の時

図2：トラクタと経営者の時給

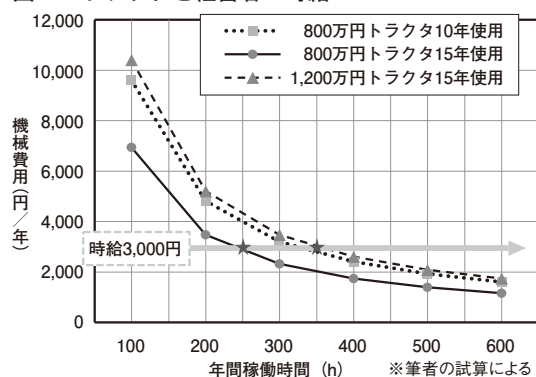
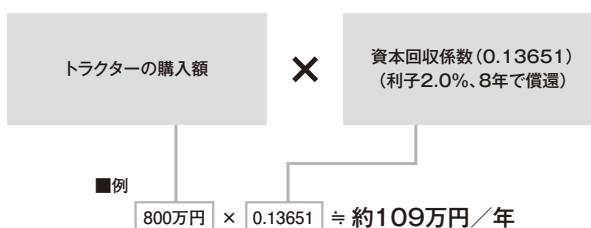


図1：試算事例一購入後に必要となる追加利益（資本回収法）



※資本回収係数とは、利率と償還年数から算出され早見表がある。
投資限界額を求めるときに用いる。

給30000円と比較してみた。

トラクターの仕事は、現代では人や馬ではどうにもできないことから、頼りになるパートナーと捉えてほしい。フォームも見方を変えれば顔のように見える機種も多く、購入価格を目標使用年数で割返した金額を専従労働者の年間給与と同じように分析してみるのである。そうすると馬力の大小は体の大きさ、稼ぎの違いと思えてくる。

そのような気持ちで図2を眺めると、経営者自身の取り分より購入予定のトラクターの時給が多いか少ないかを比較できることに気づく。年間の稼働時間が少ない場合は、トラクターの時給が上回る。しかしながら、トラクターが我が家で一番の稼ぎ頭と考えることができれば、経営者より取り分が多くて当然と思えてくるだろう。この多少の是非は、読者の皆さんの判断するところである。

浮気せず長らく活用せよ

馬耕時代も愛馬の手入れに余念はなく、飼料や敷料の準備と何かと物入りで手間だったはずだ。馬を耕起作業に活かすようになり、飛躍的に人類は食糧の生産性を上げ、自分が食べる糧までも減し、愛馬名馬を

育んできたであろう。トラクターも通称「馬」と呼び、大切なパートナーになっている。だが、経営者の取り分よりも時給が多いというのは、やはり少し寂しい気持ちになる。

購入価格が800万円であれば、年間250時間、1200万円であれば、350時間以上は稼働させたい。多くの稼働が見込めるなら、思い切って1グレード高いトラクターを購入してもよい。逆に、使用年数が短くなればその分時給も上がるため、15年以上を目標に浮気せずに愛していただきたい。

アワメーターのデータを利用して、年間の稼働時間や利用年数を考慮した投資分析は、違った角度でトラクターへの投資の是非を検討するのに最適である。涎が出るような便利な機能が満載のトラクターのカタログは目に毒で、実演機に搭乗してしまつては誘惑に勝てない。ある程度は台数も必要であり、中古か？新品か？と悩みながら、人件費の合計額と照らし合わせて、上手に買い物していきたいものである。なお、アワメーターの記録は車種別年単位で忘れずに行なつて、投資分析の検証と次回の更新に役立ててほしい。

経験者に聞く！GPSガイダンス導入の考え方

筆者Yの談。草地の作業に利用。一番助かる春の施肥作業はガイダンス装着により、慣れない圃場や変形圃場もエイ・ヤーである。肥料はフレコン補給、散布一筆書き。天気が恵まれなくても1日で片づき、父の説教がなくなった。T社750様様である!!

N氏の談。ガイダンスと自動操舵を導入。乾田直播の3m幅コンビネーションハロー作業が2本抜きの切り返しなし旋回でき、煩わしさを解消。作業効率も向上し、徐々に嫁さんをトラクターのオペレーターに養成する予定。夫婦のコンビネーションが水田で炸裂するのも間近!

M氏の談。ガイダンス装着によりトラクターでの作業中の昼食が、オニギリから箸で弁当を食べるようになったらしい。栄養の偏りから解消され、作業効率がアップした彼は、さらにエネルギッシュに全国情報収集ツアーへ。今度は熟々のカップラーメンにチャレンジしてほしい(笑)。

詳細に経済試算されている資料から合理性、客観性を感じても、購入する根拠にはならない。利用者から笑い・感動・涙の逸話をたくさん聞き集めて共に語らい、次世代を担う経営者は購入時の参考とするべし!